

松江市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例

松江市職員の特殊勤務手当に関する条例（平成 17 年松江市条例第 49 号）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の下線を付した部分は、これに対応する改正後欄に掲げる規定の下線を付した部分のように改め、改正後欄に掲げる規定で改正前欄にこれに対応するものを掲げていないものは、これを加える。

改正後	改正前
<p>(防疫等作業手当)</p> <p>第 4 条 防疫等作業手当は、次に掲げる場合に支給する。</p> <p>(1) 略</p> <p>(2) 職員が市長が規則で定める感染症が発生し、又は発生するおそれがある場合において、感染症患者若しくは感染症の疑いのある患者の救護の作業又は防疫の作業に従事したとき(<u>第 5 号</u>に掲げる場合を除く。)。</p> <p><u>(3) 職員が家畜伝染病予防法(昭和 26 年法律第 166 号)第 2 条第 1 項に規定する家畜伝染病(次号において単に「家畜伝染病」という。)(口蹄疫、豚熱、高病原性鳥インフルエンザ又は低病原性鳥インフルエンザに限る。)のまん延を防止するために行う家畜のと殺、家畜の死体の焼却若しくは埋却又は畜舎等の消毒の作業に従事したとき。</u></p> <p><u>(4) 職員が家畜伝染病のうち市長が規則で定めるもの及び家畜伝染病予防法第 4 条第 1 項に規定する家畜伝染病以外の伝染性疾病のうち市長が認めるもの(以下この号において「家畜伝染病等」という。)</u></p>	<p>(防疫等作業手当)</p> <p>第 4 条 防疫等作業手当は、次に掲げる場合に支給する。</p> <p>(1) 略</p> <p>(2) 職員が市長が規則で定める感染症が発生し、又は発生するおそれがある場合において、感染症患者若しくは感染症の疑いのある患者の救護の作業又は防疫の作業に従事したとき(<u>第 4 号</u>に掲げる場合を除く。)。</p> <p><u>(3) 職員が市長が規則で定める家畜伝染病</u></p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

<p>が発生し、又は発生するおそれがある場合において、<u>家畜伝染病等</u>にかかっている家畜若しくはその疑いのある家畜の処置の作業又は防疫の作業に従事したとき <u>(前号に掲げる場合を除く。)</u>。</p> <p><u>(5)</u> 略</p> <p>2 前項に規定する手当の額は、1日につき、次の各号に掲げる作業の区分に応じて当該各号に定める額とする。</p> <p>(1)・(2) 略</p> <p><u>(3) 前項第3号の作業 380円(著しく危険であると市長が認める作業に従事した場合にあっては、当該額にその100分の100に相当する額を加算した額)</u></p> <p><u>(4) 前項第4号及び第5号の作業 370円</u></p>	<p>が発生し、又は発生するおそれがある場合において、<u>家畜伝染病</u>にかかっている家畜若しくはその疑いのある家畜の処置の作業又は防疫の作業に従事したとき _____。</p> <p><u>(4)</u> 略</p> <p>2 前項に規定する手当の額は、1日につき、次の各号に掲げる作業の区分に応じて当該各号に定める額とする。</p> <p>(1)・(2) 略</p> <p><u>(3) 前項第3号及び第4号の作業 370円</u></p>
--	---

附 則

この条例は、公布の日から施行する。